

5年振り 太宰府学講座を開きます

まち作りについて 新旧議員や経済人と語ろう

ご挨拶

久しぶりに「太宰府学」を計画しました。しかも、今回は、いわゆる歴史・文化ではなくて、講師陣は新旧の政治家、それと経済人として一線に立っておられるお方をお願いしたところからです。

共通のテーマとしては、一応

「まち作り、私はこう考える」として、あとの内容については、講師の方々の自由にお任せしたいと思っています。

ただ今回の特色として、講師の方々と参加者との交流の時間を設定いたしました。従って、単に「聞き置く」だけではなくて、率

直な意見交換ができればいいと考えています。

まち作りに関しては、議会や行政に携わる人々が考えるのは当然としても、本来、住民自身が希望や意見を充分に述べることを前提として、進められるべきものと思われれます。

その点、どうでしょうか。市政はあくまで住民のために行われるわけですから、住民中心の計画、そして実施がなされるべきであることを考えます。と、やはり従来そうした試みが少な過ぎたように思われるのです。市民の皆さんには、私どものそうした思いを、受け止めてく

ださることを念じております。そして、これは当会だからこそ出来る、しかも最後の試みではないかとも考えております。皆様の奮ってのご参加を期待する所存です。

これを計画するに当たっては、まず発案から講師交渉までを

観世広川当会相談役が行いましたが、その後、この会報の紙面づくりや配布の一部については、市民グループ「だざいふ市民の輪」の皆さんのご協力を頂きました。また、匿名希望の某氏よりご芳志を頂戴致しました。

そのおかげをもちまして、この企画が出来た次第です。

そして何より、講師にお願いした方々の快いご賛同を頂いたことは、実に心強いものでした。

有難うございました。

(当会代表 樋口 誠)

みなさんの投稿をお待ちしています



投稿する記事のテーマは自由です。まちづくり、太宰府市政、コミュニティ、趣味、ご意見・ご感想 etc. 紙面の都合上、500字程度で作成いただき、ご連絡ください。

大蔵 勝美:090-2960-8761

市民グループ
住みよい太宰府を作ろうかい
略称:作ろうかい

作ろう!

第157号 (2024.10.10)

代表 樋口 誠

相談役 観世 広

投稿・連絡先 事務所

〒818-0101

太宰府市観世音寺 4-17-22
山本方

事務局長 大蔵 勝美

TEL 090-2960-8761

◇1万5,000部 発行

太宰府学講座・日程と講師一覧

●場所: いきいき情報センター 201号室

●時間: 午後2時~4時 (1時間の講演の後は懇談)

※参加費: 各500円、通しで5,000円

※学生・生徒は 各300円

※募集人員: 48人 (会場の関係)

電話予約は、樋口 誠 090-9720-0162

大蔵 勝美 090-2960-8761

参加費は会の運営費(会報の発行等)に充てます。

10月20日(日)	原田 義明/元環境大臣
10月26日(土)	門田 直樹/太宰府市議会議長
10月27日(日)	渡辺 美穂/福岡県議会議員
11月02日(土)	堤 かなめ/衆議院議員
11月03日(日)	宮原 伸一/福岡県議会議員
11月09日(土)	菊本 亮/福岡銀行太宰府支店長
11月10日(日)	白水 清博/JA筑紫理事長
11月16日(土)	青山 博秋/青山地建(株)社長
11月17日(日)	浦田 秀徳/筑紫法律事務所弁護士
11月23日(土)	平原 四郎/元筑紫野市長
11月24日(日)	久永 健志/西日本新聞論説委員
11月30日(土)	△ 楠田 大蔵/太宰府市長

※ △は講師交代の可能性がります。

作ろう！・コラム

作ろう！からの提言

自治会の条例化を求める！

太宰府市には、行政区ごとに44の自治会が存在しているが、現状では加入・脱退が自由な任意団体に過ぎないのが現状である。そこで、地域コミュニティの価値を市民全体で共有するために、自治会の役割を新たに明記した条例の制定を提言したい。

自治会は、市民に最も身近な自治組織でありながら、制度上の明確な位置付けはない。しかし、市から毎年、支援助成金の交付を受け、広報や周知文書・チラシ類の配布・回覧を行うほか、防災、防犯、福祉などの公的分野においても、なくてはならない団体となっている。

しかしながら、自治会は独立した公的機関の一部として、一般的な任意団体とは異なる性質を持つものであり、自治協議会とともに、市と対等の立場で制度上の明確な位置付けを求めたいと考える。

今日の地域社会の変化に合わせて、暮らし(市民生活)に関わる施策を考えるとき、住民参加の真価が問われる時代であるがゆえに、市としても自治会との協働を一層深めなければならぬ。

老人クラブは

賞味期限切れなのか？

私は老人クラブ・通古賀長寿会に入会してから7年が経ちました。当時の通古賀長寿会は会員数が62名で、カラオケ部やフラダンス部、ダーツ部などの活動が盛んで、定例会も終了時刻の14時を過ぎるほど、賑やかで元気いっぱいでした。

しかし、最近では会員数を50名確保するのが精一杯で、存続しているのはダーツ部ぐらい、カラオケ部やフラダンス部は消滅してしまいました。定例会も14時を待たずに早めに切り上げることが多くなりました。

思い返せば、昭和43年に発会した当初の年齢層は、多くの人が60歳から70歳で、80歳以上の方は散見される程度でした。平均年齢は70歳を越えていなかったと思われれます。

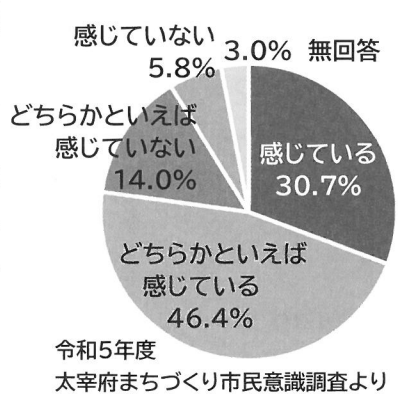
令和6年度の会員数は51名で、平均年齢は82.5歳です。高齢者の数は増えていますが、入会者は減少する傾向にあります。この現状を考える

と、老人クラブの存在意義が失われている、賞味期限切れと感じざるを得ません。老人の楽しみも多様化している現在、老人クラブ自体が変わらなければ、消滅してしまうのではないのでしょうか。

私は通古賀長寿会に加入するメリットを力説して勧誘していますが、今

後も勧誘できるか自信はありません。太宰府市長寿クラブ連合会(大寿連)においても、市内の44自治区にある老人会クラブのうち、半数の22クラブしか加入していない状況です。今後減少することはあっても、増加することはないと考えざるを得ません。加入していないクラブの会長に、太寿連への加入のメリットを問われても答えられない状況です。私は堂々とメリットを力説できる太寿連になることを期待しています。

65歳以上の皆さん、日頃から生きがいを感じて生活していますか？



「女性部とはなんですか？」返答に困ってチコちゃんに叱られる？

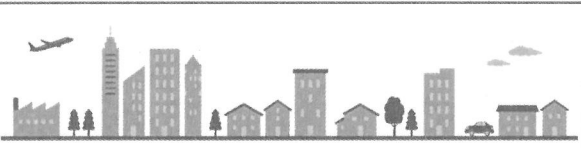
太宰府市長寿クラブ連合会(太寿連)の定期総会の翌日、ある地区クラブの女性部長さんと立ち話をしている時のことです。「女性部とは何ですか？」と聞かれ、一瞬、バラエティ番組「チコちゃんに叱られる！」のワンシーンのように、返答に困ってしまいました。「お稽古事の発表会などを行って

います。」といった曖昧な答えしか思い浮かばなかったのです。

もちろん、彼女の質問の意図は、「太寿連になぜ『女性部』があるのか？『男性部』はなぜないのか？」という点にありました。改めて考えてみてください。私たちは、潜在的に「男が主で、女は従」という固定観念を、何の疑いもなく抱いているのではないのでしょうか。これは、私たちの年代に限らず、知らず知らずのうちに潜在意識に刷り込まれているものかもしれません。

ちなみに、太寿連の役員において、女性と名前が付く部署以外の女性役員はゼロです。私は、良識ある高齢者の親睦団体である太寿連こそ、率先してクオータ制の導入に取り組んでみてはどうかと考えています。

通古賀区 大蔵 勝美



太宰府市議会 市民と議会の意見交換会

日時: 11月10日(日) 10時~12時(予定)
場所: いきいき情報センター 2階

※ 詳細は、議会だより11月号をご覧ください。